

認定こども園を見学して

1 はじめに

少子化が問題とされる昨今、認定こども園（保育所型）ではどんな保育がすすめられているか、また施設面ではどんな工夫がされているかなど、見学をとおして現在の子育てについてふれ、保育の授業にいかしたいと思い、このテーマを設定した。

2 研修計画

- (1) 令和5年5月23日（火） 研究協議・テーマの決定
- (2) 令和5年8月22日（火） 研修会〔会場：おんじゅく認定こども園〕
- (3) 令和5年9月7日（木） 9月14日（木） 家庭総合授業〔3年生〕

3 研修内容

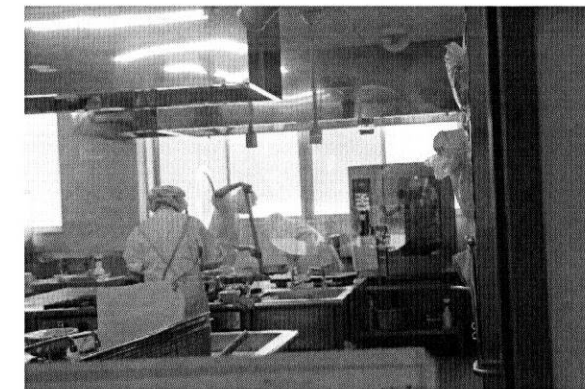
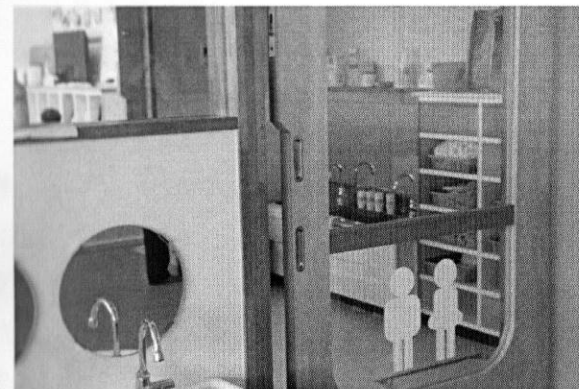
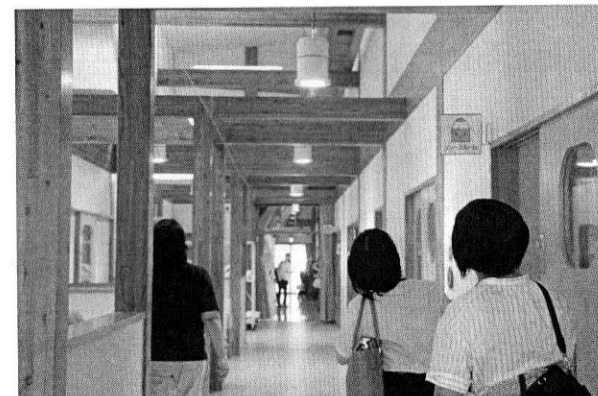
(1) 第1部 認定こども園見学

①保育士さんと子どもとのかかわり

- ア 様々な子どもについての的確に把握されていて、動と静のめりはりのある保育をされている。
- イ 子ども一人ひとりに丁寧に関わり、子どもの喜びと一緒に共感するなどされている。
- ウ 子どもの安全に常に気を配られ、子どもが安心して生活している。
- エ 子育て支援センターも併設し、保育士さん、保健師さん、心理士さんとの横のつながりも持ち、地域で連携した保育を展開されている。

②施設面での工夫

- ア 緑豊かな環境で高台にあり、風通しも良い。地震に強い平屋建てで、避難しやすい。
- イ 園庭が広く、花壇の中に野菜や稲を育てるスペースもあり、収穫できた時には給食に利用したりもする。
- ウ 園内は木のぬくもりが感じられ、あたたかい落ち着いた環境である。
- エ ドアに指を挟まないような隙間を設け、窓の鍵やコンセントが高めの位置にある。
- オ トイレは2方向から利用可能で、沐浴やシャワーの設備もある。



カ 給食室がガラス張りになっていて中の様子がよく見え、食育に役立っている。

キ 各部屋に子どもの年齢に合わせた掲示がされている。また、廊下には子どもたちの作品やお知らせ掲示があり、保護者が子どもの様子を知ることができる。

(2) 第2部 家庭総合授業〔3年生 男子22名のクラス〕

授業の中で、認定こども園の様子についてふれることができた。生徒たちは自分たちの保育園、幼稚園の時との違いを知ることができた。この認定こども園では、地域柄自営業の保護者も比較的多く、男性の育児休暇を取得されている方は少なめである。生徒が男性の育児休暇について興味・関心を持ったため、このことに焦点を当てて学習してみた。男性が育児休暇を取得した例をあげ、メリットなどについて考えてみた。将来、もし子どもがうまれたとして、自分が育児休暇を取得するかたずねたところ、21名が利用したいと答えた。ただ、育児休暇を取得するにあたり、代替の人の確保の問題があることや、職場の仕事が上手くまわってくれば取得したいと考える生徒が多かった。

4 考察

(1) 第1部 認定こども園見学

子どもたちの表情はきらきらしていて、純粋さといろいろな可能性を秘めている。保育士さんは、子どもを育てているようで、自分も育っていることを実感できる、やりがいのある職業であると感じた。

(2) 第2部 家庭総合授業後の生徒の感想（抜粋）

- ①パートナーに任せきりにして、つらい思いをさせたくないし、動ける自分が動いた方が良いと思うので、男性の育児休暇を取得したい。
- ②男性が育児休暇を取得した場合、女性の立場から見ると、夫による精神面でのサポートの効果はかなり大きいといえる。男性の立場から見ると、「育児・家事・生活全体において、今まで気付かなかったことに気付くことができる」、「人生において、大きな経験となる」と思う人が多いと思う。
- ③男性の育児休暇をもっとスムーズに取ることが可能な職場や社会の仕組みをつくるべきだと思う。

5 おわりに

お忙しい中、この研修に際しご尽力いただきました、おんじゅく認定こども園の先生方にこころより感謝申し上げます。